

お盆の水と共に

発行 法華寺
No.2
2017.7
河南町加納 247
☎0721933023

「お盆の」いわれ

一般に、「お盆」と言われますが、もともとは、インドの言葉で「ウランバーナ」の漢字訳「盂蘭盆(うらぼん)」を略して「盆」と表現されたものです。その「ウランバーナ」の意味は、逆さまに吊るされて地獄に落ちる苦しみ」のことで、「お盆」とは、縁のあった故人の苦しみを取り除く行事のことです。

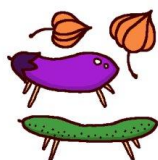
そのいわれを述べてみます。

お釈迦様のお弟子の目連(もくれん)さまの母親が利己的で欲張りだったため、死後には地獄に落ちてしまいました。神通力でそれを見た目連さまは、嘆き悲しみました。そして、苦しむ母親をなんとか救いたいと思ってお釈迦様にすがりました。

お釈迦さまは、目連さまに「お前の母親は自分や自分の子供さえよければ良いという生き方であった。救うためには、お前自身、しっかり人のために尽くし、人に施しなさい。その功德を知り母親は心から

懺悔し、苦しみから救われるのである。そして僧たちが、戻り集まる雨季に、仲間の修行僧とともに、故人を供養するがよい」とおっしゃられました。

遠いご先祖様の中に供養を受けたい方もおられるかも知れません。また、自分に縁のない方の中で、誰からも供養を受けられない方もおられるかも知れません。施餓鬼法要にお参りされたなら、ご先祖や親しかった方への供養に加えて、ほんの少しでも、誰からの供養も受けられない無縁仏に対してお祈りいただければ、ありがたいです。集まった僧侶の読経と、施餓鬼法要ご来寺の檀信徒さま一同の供養で、あの世で苦しむ方が救われていくことを願っています。

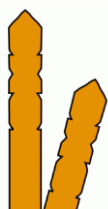


お盆の祀り方プリント

昨年、二〇一六年七月十六日のホームページブログで「お盆の祀り方の一例」を載せています。同じプリントはお寺にも用意してありますが、ご連絡いただけましたら、月参りなどで、お持ちいただけますので遠慮なくお知らせください。

お塔婆について

施餓鬼法要では本堂でお塔婆を立てて供養します。お塔婆は、「卒塔婆(そとうば)」の略です。元々はインドの言葉で、お釈迦様のお墓として建てられた「ストウーパ(塔)」を意味します。五重の塔しかり、塔を建てて供養することが、仏教伝来と共に伝わったのです。各家庭の精霊棚でお祀りするものは、木の厚みを薄くした卒塔婆ですが、一般に「経木(きょうぎ)」と呼んでいます。施餓鬼法要の際に、お持ちください。



ホームページのブログ(二〇一六年五月二十五日)より

當寺の境内は、季節ごとに、色々な花が咲きます。境内わきの水鉢に、今年も白い睡蓮(すいれん)が咲きました。泥の中から美しい蓮が咲くように、「苦しく辛い世間の中でも、悟りの花を咲かせましょう」という趣旨のお経が「妙法蓮華經(法華經)」です。(しかし、泥が無くては蓮が育たないことも事実です)

お経は、何を言っているのかわからないもの、として呪文のように思われがちですが、その經文(漢文)の意味を知ると、たくさんの生きる知恵や、考え方が詰まっていることがわかります。また、お経には、その内容だけでなく様々な「丸(ちから)」が、たたみこまれています。

深い呼吸をしながら、おなかの底から声を出す。読經を通して信じて祈ることの尊さを実感してみてください。

今後の行事予定です

◎八月十五日(火) 午後一時～

施餓鬼会法要

◎九月二十三日(土) 午後七時三〇分

彼岸会逮夜法要

※施餓鬼会法要お参りの際は、

河南町ぶくぶくドーム駐車場を

ご利用ください。お寺の下まで、

バスのピストン送迎いたします。

※彼岸会法要は、近隣檀家様中心の

法要になっておりますが、どなたで

もご参加いただけます。初めてお参

りいただく場合は、お寺までご連絡

ください。



あとがき

・住職(日驗)

肩こりに悩まされながらお盆の経木を書いています。最近腰痛も。やっばり歳はごまかせません。

・副住職(真人)

五月半ば、結構激しく車の追突を受けました。でも身体は全く無傷。大難が小難に。本当にありがたいことでした。

・寺庭婦人(メイ)

季節ごとに、らっきょう、梅干し、生姜、半夏生のお餅づくり。近くのお檀家様にお手伝いいただきながら作っています。

・寺庭婦人(早智子)

1kgやせようと努力したつもりが、逆に1kg増えてしまっていました。どういうことでしょうか？

・徒弟(大志)

先日、献血しました。後の連絡結果、数値は全て正常範囲。安心しました。